



## < お役立ち情報 >

## 特に注意が必要な漢方薬の副作用

前回 (No.31) に続き、今回は漢方薬の副作用について、特に注意すべき生薬とその製剤に注目します。

漢方薬は一般用医薬品としてドラッグストアなどで簡単に手に入り、国のセルフメディケーション推進のためか、その種類も増加し、テレビコマーシャルでも目にする機会が増えているように感じます。国民の間には、漢方薬は副作用が少なく安全であるという認識が少なからず存在し、国民の健康志向の増加から長期にわたって服用する患者が増えれば、「血圧が上がった」「むくみが出た」「下痢が続く」といった漢方薬による副作用症状を訴える患者が増えるかもしれません。まして通院して西洋薬も服用していれば、そのせいだろうと思って放置している状況にあるかもしれません。我々薬剤師は、「どの生薬によってどんな副作用が生じるか」を理解し、「どの漢方製剤に気を付けるべき生薬が含まれているか」を把握して、漢方薬服用患者の状態をチェックすべきと考えます。特に注意すべき生薬の副作用とその製剤についての表を右下に引用しました。

**黄芩**は肝障害を引き起こす生薬として有名で、小柴胡湯による間質性肺炎も黄芩が原因とされています。肝障害の頻度は1~2%程度であり、黄芩を含む漢方製剤は小柴胡湯の他に、使用頻度が高いものとして大柴胡湯や黄連解毒湯、防風通聖散が挙げられます。黄芩の副作用は定期服用を始めてから1~2カ月で生じることが多いとされ、これらの漢方製剤を長期に渡って使用する際は、定期的な血液検査等でフォローすることが望ましいです。

**麻黄**を含む漢方薬は、かぜ症状等に用いる葛根湯や麻黄湯がその代表例です。また、黄芩を含む漢方製剤として紹介した防風通聖散にも麻黄が含まれています。副作用として胃部不快感があるので、麻黄を含む漢方製剤を処方されている場合は患者に「胃の具合など」を確認しましょう。また、麻黄には動悸や不眠といった交感神経賦活作用による症状が起こる場合もあるので、心拍や睡眠の状況を聴取することも必要です。

**大黃**は緩下剤であり、効き過ぎると下痢を来します。また、母乳移行性があるため、授乳婦が服用すると母乳を通じて作用を及ぼし、乳児が下痢をする可能性があります。授乳婦であるかどうかのチェックが必要です。

**甘草**は約7割の漢方製剤に含まれ、甘草が偽アルドステロン症の原因となることはよく知られています。特に甘草の1日摂取量が2.5gを超えると偽アルドステロン症のリスクが高まります。こむら返りによく用いられる芍薬甘草湯の1日量(7.5g)には甘草6g分の乾燥エキスが含まれますから、頓服として用いることが原則です。「こむら返りには芍薬甘草湯」という認識は患者にもある程度浸透しており、医師が知らないところで患者が芍薬甘草湯を服用しているケースもあります。血圧高値、カリウム低値、むくみなどを認める場合は、それら3つが全て揃っていなくても芍薬甘草湯を飲んでいないかどうかを確認する必要があります。

**附子**は、冷えや痛みを軽減させる目的で使用します。冷えが目立たない暑がりの人など、附子の本来の適応でない人が内服すると、舌のしびれや不整脈といったトリカブト中毒症状が生じることもあります。

**山梔子**(さんしし)は腸間膜静脈硬化症の原因となり、腹痛や下痢の症状を来します。山梔子を含む漢方製剤を5年以上投与する場合は、定期的にCT検査、大腸内視鏡検査等を行うことが望ましいとされています。

生薬	副作用	各生薬を含む代表的な漢方製剤
黄芩	肝障害、間質性肺炎	小柴胡湯、大柴胡湯、黄連解毒湯、防風通聖散
麻黄	胃部不快感、交感神経症状	葛根湯、麻黄湯、小青竜湯、防風通聖散
地黄	胃部不快感、皮疹	八味地黄丸、牛車腎気丸、十全大補湯
大黃	下痢	大黃甘草湯、麻子仁丸、防風通聖散
甘草	偽アルドステロン症	芍薬甘草湯、葛根湯、抑肝散、六君子湯、防風通聖散
附子	トリカブト中毒	八味地黄丸、牛車腎気丸、真武湯
山梔子	腸間膜静脈硬化症	加味逍遙散、防風通聖散、加味帰脾湯、黄連解毒湯

(<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t263/202101/568495.html>)

## < お役立ち情報 >

## 使用されやすい漢方薬

日本東洋医学会会員で漢方診療を長年実施する池谷幸太郎氏が勧める漢方薬の一部を右表に示しました<sup>1)</sup>。エキス製剤の場合、小青竜湯の1日量には、偽アルドステロン症リスクが高まるとされる用量の甘草(1日摂取量2.5g以上)が含まれているため、その旨をしっかりと患者に説明することが必要ですし、その他、加味逍遙散(山梔子含有)、真武湯(附子含有)、六君子湯(甘草含有)など、副作用に気を付けるべき生薬が含まれる漢方薬もあるため、服薬中の副作用に関するフォローアップも必要と考えます。山梔子の副作用である腸間膜静脈硬化症は、5年以上の服用でリスクが高まるとされていますので、加味逍遙散など長期に使用する必要がある場合には、腹痛や下痢といった腸間膜静脈硬化症の症状を起こしていないかをフォローアップする必要があります。

また、漢方診療を埼玉県三郷市で行っている松田 正氏は、薬剤師にお願いしたいこととして、少なくとも3か月以上にわたって同じ漢方薬が処方されている場合には、患者さんが薬効を感じているかどうかを是非確認してもらい、患者さんが薬効を感じていない場合には、その旨を主治医に伝えてみてほしいと提言しています<sup>2)</sup>。

漢方製剤	対象となる主な症状・疾患	即効/長期
当帰芍薬散	やせ、虚弱タイプの月経困難症、下腹部痛	長期
加味逍遙散	一つのことこだわるタイプの更年期障害	
桂枝茯苓丸	がっちりしたタイプのホットフラッシュ	
補中益気湯	胃腸の運動機能改善、胃下垂	
葛根湯加川芎辛夷	副鼻腔炎	即効
乙字湯	痔	
半夏厚朴湯	漢方医学のマイナートランスクライザー	
五苓散	月経前症候群、むくみを改善する作用	
小青竜湯	アレルギー、気管支炎	
麦門冬湯	咳嗽	
真武湯	めまい、浮遊感	
当帰四逆加呉茱萸生姜湯	極度の冷え	
六君子湯	胃腸が弱いタイプのファーストチョイス	
釣藤散	中高年の頭痛・高血圧合併症	
抑肝散加陳皮半夏	不眠	
人參養榮湯	不登校、引きこもりの児童	

1) <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t263/202101/568571.html>

2) <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/matsuda/202112/572929.html>